



平成25年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

本年5月9日・10日開催の本セミナーからハイライトをご紹介します。



エリック・ホルナゲル教授

南デンマーク大学教授、南デンマーク地域品質センター主任コンサルタント。

近年、レジリエンスエンジニアリングを医療に応用することを目的とするResilient Healthcare Netを立ち上げ、欧米の医療従事者の参画を得ている。

特別講演「レジリエント・ヘルスケア入門」

演者：エリック・ホルナゲル

医療の現場での事故やインシデントなどは、必ずひとつの原因に対してひとつの結果が起こる、というような単純なものではありません。本講演では、そのような医療の現場で安全を確保するために、Safety I とSafety II のふたつの考え方が必要であることが述べられました。

Safety I の考え方：失敗を減らすことにより、安全性を高める

事故やインシデントなどに反応して、その原因を見つけて対策をとることにより、事故やエラーを減らしていこう！

⇒**従来の安全の考え方**

Safety II の考え方：成功を増やすことにより、安全性を高める

日々の仕事が、予定通りに進んでいる時にも、予定外の状況が発生しても“うまくいく”場合を増やしていこう！

⇒**新しい安全の考え方**

業務における頻度を見てみると、「成功」は「失敗」よりもはるかに多く生じています。1回の失敗からだけでなく、9,999回の成功から得られる情報が多くあると考えられます。



失敗を見る→Safety I

頻度の低い「事故」は、気づくのは容易だが、その原因は複雑で、変更・管理しにくい。

成功を見る⇒Safety II

頻度の高い「日常の業務」は、慣れているため気づくことは難しいが、比較的単純で、変更・管理しやすい。

「成功を見る」とは・・・日常の業務において、われわれは、予想される悪い結果を避ける、先で使えるよう工夫する、不都合な条件をカバーする等、適当に調整（アジャストメント）することにより、**安全に仕事を行って（成功して）**います。しかし、その調整が適切でなければ失敗に至ります。日常の業務を観察することにより、現場でどのような調整が行われているか、どのような行動パターンが見られるかを把握し、仕事をしやすくすることにより成功の可能性を増やしましょう。